訃　報

田中俊一郎先生を偲ぶ

九州大学大学院農学研究院
教授　田中史彦（平成 2 年卒）

突然の訃報に接し、誠に残念な思いです。本年 8 月、田中俊一郎先生は逝去されました。享年 76 歳でした。在りし日のお姿を偲びつつ、ここに故人のご功績に深く敬意を表します。

田中俊一郎先生は生産流通科学（現農産食料流通工学）研究室第五代教授として、平成 14 年 3 月から同 18 年 3 月まで 4 年に亘り在任され、本学の教育研究にご尽力されました。その間、農業施設学会理事を務められるとともに、農業機械学会（現農業食料工学会）評議員として学会の発展に寄与されてきました。鹿児島大学にご在任の時代には、石橋貞人先生（本研究室第二代教授、鹿児島大学名誉教授）の下、新進気鋭の研究者としてその才能を遺憾なく発揮され、伝熱現象の有限要素法解析などの基礎学問から青果物の中長期貯蔵など応用研究に至るまでの多岐に亘る研究をご遂行、それらの成果の一部を取りまとめられ農学博士ならびに工学博士の学位を取得されるなど、大変ご活躍されました。助教授、教授に昇任された後も一貫して青果物の低温貯蔵技術開発の研究にご専念、これらの一連のご研究は農業機械学会（現農業食料工学会）で高く評価され、平成 10 年に「青果物の予冷過程における伝熱工学的研究」の業績で学術賞を受賞されております。また、平成 10～13 年度には基盤研究（A）「青果物用二元調湿換気式低温貯蔵方式」についてのご研究が採択されるなど、ご活躍されておりました。この時代、小職は田中先生の助手としてその任に当たり、実に感銘深い時期を過ごさせていただきました。当時、田中先生の研究に対する姿勢は極めて厳格であり一切の妥協を許さないことから、学生の間では「鬼の田中」とまで呼ばれておりましたが、研究室での飲み会では破顔、その人間味あふれるお姿に門下生の皆が魅了されておりました。僅か 6 年の期間でしたが、多くのことを学ばせていただきました。

田中先生との一番の思い出は、先の研究課題で青果物用二元調湿換気式低温貯蔵庫を設計・開発した際の不眠不休の日々です。鹿児島大学農学部 4 号館（現 E 棟）南の古い倉庫を解体し、学部長始め多くの先生方にご出席頂き地鎮祭を執り行った後、そこに延べ床面積 200m^2 に及ぶ低温貯蔵施設を建立しました。トレードマークである作業着姿の田中先生の指揮の下、業者と共に熱計算を行い適切な機器や建築材料を選定し、二元調湿換気式低温貯蔵庫を 4 基製作しました。前室として収穫した青果物を前処理するスペースを確保するなど石橋先生時代から続く「鹿児島に低温貯蔵研究拠点あり」を印象付ける施設だったように思います。当然、科研のみでは資金は不足し、その調達も思うように行きませんでしたが、一方で、田中先生の信念に共感する方々も多く、無事に期間内に研究を完遂することができました。当時、民間との共同研究は主流ではなく、外部資金を獲得することを嫌う傾向もありましたが、田中先生はこれに真っ向から立ち向かわれ、多くの不可能を可能にしてこられました。ご生前、田中先生は西澤潤一先生（東北大学名誉教授）の話をよくされていました。「ミスター半導体」として知られる西澤先生は日本を救う半導体開発の研究資金調達のため多くの困難に打ち勝ってこられました。田中

先生には、「私欲ではなく日本のために尽くしたいという研究者の思いが人を動かす。貴方も信念をもって務めなさい。」とご指導をいただきました。奇しくもこのお二人は同年に他界されております。

田中俊一郎先生の一生は、正に戦う研究者を体現された人生であったかと思います。ここまでお導きいただきましたことに深く感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

合掌

鹿児島大学教授時代の田中俊一郎先生（平成 13 年 12 月）